

**外国人市民のための
日本語能力向上支援事業
令和 5 年度(2023 年度)実績**

市民局国際平和推進部国際化推進課多文化共生担当
(受託者：(公財) 広島平和文化センター)



外国人市民のための日本語能力向上事業（令和５年度）実績

国は、令和元年度に制定した「日本語教育の推進に関する法律」において「地域の状況に応じた日本語教育施策の策定・実施」を地方公共団体の責務とし、その財政支援として「文化芸術振興費補助金（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業）」を創設した。

このため、広島市は、同補助金を活用して日本語能力向上支援事業に本格的に取り組むこととし、広島平和文化センターは、広島市からの委託により令和２年度からこれに取り組んでおり、令和５年度には以下の事業を実施した。

外国人市民のための日本語能力向上支援事業

- １ 日本語教育コーディネーターの配置
- ２ 入門レベル日本語講座
- ３ 日本語教育関連事業
 - (1) 「みんなで話そう」「やさしい日本語」連続講座
：やさしい日本語で学び合う地域の暮らし・防災
 - (2) 多文化共生講師の養成と地域での講座の開催
 - (3) 広島市日本語教室ネットワーク会議
：地域日本語教室間の情報交換、ネットワーク化
- ４ 日本語ボランティア養成講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ５ 地域の日本語教室立ち上げ時の支援
- ６ 企業における日本語教育の普及促進
：日本語教育のあり方の検討
- ７ 日本語の少人数指導
：ウクライナ避難民向け
- ８ 広島市日本語教育事業報告会「にほんごで、つながる～外国人が日本で子育て」
- ９ その他の取り組み
 - (1) SNSによる広報
 - (2) 図書の貸し出し・蔵書の充実
- １０ 令和５年度の総括と令和６年度の取組

1 日本語教育コーディネーターの配置

広島市の日本語教育推進に係る体制づくりの取組の一つとして、日本語教育コーディネーターを通年配置。広島平和文化センターの日本語教育に関する事業の企画、総括をすると共に、この事業の一助とし広島市の日本語教育の環境を向上させるために、外部団体の視察、聞き取り（地域の日本語教室：12か所、日本語教育機関・企業：8か所）を行い、文化庁主催の情報交換会（東京、1回）に出席した。

2 入門レベル日本語講座

◆ 日 時：（春期）令和5年4月20日～7月24日（毎週月・木曜日）

（秋期）令和5年9月26日～12月15日（毎週火・金曜日）

◆ 場 所：（春期）まちづくり市民交流プラザ 北棟5階研修室、広島国際会議場 3階研修室

（秋期）広島国際会議場 3階研修室

◆ 回 数：春期21回、秋期22回（各回2時間）

◆ 講 師：福永尚子氏、胡子和子氏、吉村祥子氏

◆ 参加者：（春期）16名（ネパール8、フィリピン3、中国1、モンゴル1、イラン1、マレーシア1、ベトナム1）

（秋期）9名（インド2、日本2、中国2、ネパール1、フィリピン1、ペルー1）

初めて日本語を学ぶ外国人市民向けに、ひらがな・カタカナや基礎的な会話など入門レベルの日本語講座を実施した。「日本語教育の参照枠」Can-do（ヨーロッパ言語共通参照枠を参考に開発され、「日本語で何がどれだけできるか」の課題遂行能力の獲得を重視する）に則した授業内容を提供し、日本での日常生活に必要な日本語（特に口頭運用）の力をつけることを目指した。また、学習者がボランティア講師から支援を受けられるレベルの日本語能力を身に付け、地域の日本語教室へ橋渡しすることも目的とした。

学習内容を定着させるとともに、受講者が日本に興味と親しみを持ち、日本人市民と共通の話題を持つことでコミュニケーションが促進されるよう、広島にちなんだ日本文化を体験する課外学習（書道体験、茶道体験）を取り入れた。

この教室には日本語ボランティア養成講座の受講者もサポーターとして参加した。外国人受講者だけでなく、サポーターへの指導を両立できるよう、日本語教師としての実績のみならず、教師養成経験や地域の日本語教室運営経験がある講師を起用した。（サポーター活動の詳細は日本語ボランティア養成講座の項目に記載）

講座終了後のアンケートでは、受講後には日常生活で日本人とコミュニケーションが取りやすくなったという意見が寄せられた。

一方で、春期の前半は、G7 広島サミットの影響により、平和記念公園内にある国際会議場での実施が困難となったため、まちづくり市民交流プラザで実施した。

授業内容（概要）

回	内容	回	内容	回	内容
1	オリエンテーション	9	時間 ひらがな	17	ほしいもの カタカナ
2	自己紹介 ひらがな	10	スケジュール ひらがな	18	買い物 カタカナ
3	家族紹介 ひらがな	11	趣味 ひらがな	19	活動③買物体験
4	好き・嫌い ひらがな	12	活動②書道体験	20	感想を述べる カタカナ
5	料理・店 ひらがな	13	誘う カタカナ	21	希望を述べる カタカナ
6	活動①茶道体験	14	交通手段 カタカナ	22	活動④交流会
7	家 ひらがな	15	地図 カタカナ		
8	部屋にあるもの ひらがな	16	復習 カタカナ		

※なお、春期については、第19回（活動③買物体験）が大雨警報発令により休講となった。さらに、講師のコロナウイルス感染により第21回は予定した内容（希望を述べる）を実施できなかったが、代わりに活動③買物体験を実施した。

3 日本語教育関連事業

(1) 「みんなで話そう「やさしい日本語」連続講座」やさしい日本語で学び合う地域の暮らし・防災

- ◆ 日 時：（夏期）令和5年 ①9月2日 ②9月9日 ③9月16日（各回土曜日）
（冬期）令和6年 ①1月13日 ②1月20日 ③1月27日（各回土曜日）
- ◆ 場 所：広島国際会議場 3階研修室
- ◆ 参加者：（夏期）第1回：日本人19名 第2回：日本人16名、外国人16名 第3回：日本人17名、外国人9名
（冬期）第1回：日本人29名、外国人1名 第2回：日本人27名、外国人13名、第3回：日本人24名、外国人17名
- ◆ 内容と講師 ①ひろしま国際センター 犬飼康弘氏（「やさしい日本語」とは何か、その使い方）
②日本語教育コーディネーター 橋本優香氏（地域のルール：ゴミ出しを題材とした外国人と日本人による「やさしい日本語」の練習）
広島市環境局職員

③広島大学大学院 小口悠紀子氏 （防災について共に考えるワークショップ）

※夏期・冬期同様

外国人市民にもわかりやすく平易な日本語でコミュニケーションをとる方法を学び、日本人市民と外国人市民とのコミュニケーション促進の一助とするため、「やさしい日本語」講座を開催した。令和4年度から、日本人市民が「やさしい日本語」の概要や用法を学ぶだけでなく、外国人市民も参加して、「やさしい日本語」を用いて地域のルールや防災について一緒に学ぶ内容とした。

(2) 多文化共生講師の養成・登録、地域での国際理解講座への講師紹介

① 日本語で伝える 外国人による多文化共生講師養成講座

- ◆日 時 ①令和5年6月4日(日) 15:00～17:00
- ②令和5年6月18日(日) 15:00～17:00
- ③令和5年7月2日(日) 15:00～17:00

◆場 所 広島市留学生会館、広島国際会議場 研修室

◆講 師 ひろしまグローバルプラットフォーム「ソトカラ」 代表 濱長真紀氏

◆参加者 ①9名、②8名、③6名

外国人市民の日本語能力の向上及び多文化共生事業の推進を目的に、外国人市民が公民館等で実施される国際理解講座等で講師として活動できるよう、日本語によるプレゼンテーション資料の作成と口頭発表能力の向上を目的として研修会を開催した。研修内容は母国の歴史・文化・風俗・習慣の紹介や日本との比較について話す20分程度のプレゼン作成とした。1回目はネタの掘り起こし、2回目はプレゼン資料作成、3回目は模擬発表を行った。模擬発表はこの事業に関心を持つ市民が聴講し、好評を得た。養成講座修了者(7名)を多文化共生講師の人材バンクに登録し、令和5年度後半から、国際理解講座を主催する公民館等に講師として紹介した。

② 地域での国際理解講座への講師紹介

◆回 数 8回

◆紹介先 いきいきプラザ(西区)※3回、五月が丘公民館(佐伯区)、仁保公民館(南区)、こども図書館(中区)、舟入公民館(中区)、鈴が峰公民館(西区)

広島に住む外国人市民が自らの経験を語りながら体験型の講座を行うことで、日本人市民の多文化共生への理解の一助となった。

③ Have a Chat! での講師代講

令和5年9月より、多文化共生講師に母国紹介と質疑応答のお話し会を依頼し、令和6年3月まで計7回実施することができた。延べ数でオンライン22名、対面55名の市民が参加し、好評であった。

(3) 広島市日本語教室ネットワーク会議

- ◆日 時 ①令和5年6月25日(日) 14:00～15:30
- ②令和6年2月18日(日) 13:00～14:00

◆場 所 ①広島国際会議場 3階研修室

②広島大学千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB

◆内 容 ①令和4年度立ち上げの日本語ボランティア教室より教室・活動紹介等、平和文化センターからの日本語教育に関する情報提供、参加教室同士の情報交換

②平和文化センターからの日本語教育に関する情報提供、参加教室同士の情報交換

◆参加者 ①21名、②20名

ボランティア日本語教室の活性化を図り、互いに連携協力できる関係づくりを進めるため、ボランティア日本語教室が自由に意見・情報交換できる場を提供した。

4 日本語ボランティア養成講座

◆日 時・回 数 コースⅠ 5回 (令和5年10月3日～10月31日の火曜日)

コースⅡ 7回 (令和5年4月24日～6月26日の月曜日)

コースⅢ 7回 (令和5年4月27日～6月22日の木曜日)

※各コースとも1回90分

◆場 所 まちづくり市民交流プラザ 北棟5階研修室、広島国際会議場 3階研修室

◆講 師 福永尚子氏、石川裕大氏、末田朝子氏、柳坪幸佳氏 (広島YMCA)

◆参加者 コースⅠ 41人、コースⅡ 15人、コースⅢ 15人

令和5年度も例年どおり、日本語ボランティアとして活動を始めたい市民と既に活動している市民のニーズにきめ細かく応え、日本語教育に地域で参画する市民の能力・資質・モチベーションの向上につながるよう、3コースに分けて実施した。コースⅠは、外国人学習者に初めて接する初心者向けとし、ボランティア参加者の裾野を広げるよう努めた。コースⅡ・Ⅲは経験者向けとし、日本語の教え方のスキルアップを図った。また、ボランティア経験はないが日本語教師養成講座(文化庁届出受理講座)を修了している者にも広報し、知識・スキルを持つ者の本講座への参加を促した。

本講座の受講者は先述の入門レベル日本語講座にサポーターとして参加し、教師の教え方を観察する、やさしい日本語で学習者と話すよう心がけるなどして外国人に日本語を教える環境に慣れることで、本講座受講後に地域の日本語教室においてボランティア活動を始める心理的ハードルを下げるとともに、経験者には日ごろの活動を振り返ってもらうことができた。

講座終了後のアンケートには、座学だけでは持ちにくかった地域での活動のイメージが持てた、外国人市民と日本語でコミュニケーションを取る際のより良い方法を学べたといった声や、また、彼らの背景や困りごととその対応など、助け合いのために必要な情報も得ることができたという意見があった。

5 地域の日本語教室立ち上げ時の支援

- ① ボランティア養成講座修了生が市内公民館で令和6年5月から実施を検討している地域日本語教室の相談及び調整補助
- ② 国際会議場で開催する地域日本語教室への便宜供与（会場手配、荷物預かり）の拡充（日本語学習会）
- ③ 国際会議場3階倉庫の「広島市にほんご自習室（仮称）」としての活用のための準備

市民が新たに日本語教室を立ち上げる際に、日本語教育コーディネーターと本事業担当者により支援を行った。具体的には、団体運営に関する助言、広報活動への協力、広島平和文化センター研修室の利用に関する優遇措置、教材の貸出し等を実施した。また、令和6年度中に、③の新たな学習スペースを設置し、地域日本語教室も利用できるように整備する。

④日本文化を通じた交流事業

- ◆ 日 時：令和5年9月3日（日）
- ◆ 場 所：広島国際会議場 3階研修室2・3
- ◆ 内 容：世界の人たちと奏でる箏（KOTO）ワークショップ
- ◆ 参加者：21名

箏の歴史・文化を知り、簡単な曲を練習することで、日本文化に慣れ親しみながら交流する場を設けた。夏季の休日に開催したことで、親子連れや夏休み中の学生の参加があり、盛況だった。1面の箏を一緒に使うことで、互いがコミュニケーションを取ることを促した。

6 企業における日本語教育の普及促進：日本語教育のあり方の検討

令和4年度までの企業向けの日本語教師派遣に携わった日本語教師を交え取組状況を検証した。

7 ウクライナ避難民への少人数日本語個別指導

- ◆日 時 各受講者の都合に合わせて調整（1世帯40時間）
- ◆場 所 佐伯区スポーツセンター、避難民自宅
- ◆参加者 2世帯2名（1世帯は令和4年度からの継続）

広島市に滞在しているウクライナ避難民が早期に自立した生活を行うことができるよう、世帯単位の少人数指導を行った。来日後しばらくは時間が取れず学習しなかった世帯に対する指導だったため、現状の日本での生活状況から、それぞれのニーズが高い日本語を検討し、必要な語彙や表現の学習を中心に行った。言葉の学習だけでなく生活相談の場としての機能も持たせた。

8 「にほんごで、つながる」広島市日本語教育事業報告会

- ◆日 時 令和6年2月18日（日）
- ◆場 所 広島大学千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB
- ◆登壇者 アシュリー・サウザー氏（武田中学高等学校教諭）、外国人市民（6名）

◆参加者 56名

日本語教育関係者や市民に対し、広島市の日本語能力向上支援事業の取組状況を共有し、多文化共生への理解を深めてもらうため、事業報告会を開催した。テーマ「外国人が日本で子育て」について考えるため、前半はアシュリー・サウザー氏の基調講演とした。サウザー氏は、国際 NGO の職員として勤務した経験があり、現在教鞭をとる広島県内の私立高校では、約 20 年間国内外で学生向けの様々な交流や研修を企画してきた。また、日本で 2 児を育てた親でもあるため、教育者として・親として、必要な文化背景、市民の相互の理解について話を聞くことができた。

9 その他の取組（通年）

(1) SNS による広報

①「広島市にほんごデスク」の Facebook を通して広報、情報提供を行った。



QR コード読み取り、もしくは<https://www.facebook.com/hiroshima.nihongo/>アクセスで詳細を表示

- ・投稿回数 23 回（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）
- ・内容日本語教育向上支援事業で実施する催しの広報・実施レポート、「やさしい日本語」及び多言語化した生活情報、地域のボランティア教室に関する情報、外国人スタッフの紹介、災害級の大雨の際の「やさしい日本語」による注意喚起等
- ②地域で活動する日本語ボランティアのための LINE オープンチャット運営
 - ・日本語ボランティアが活用できる平和文化センターの日本語教育の取組み等について直接情報（新しい図書の配架のお知らせなど）を届けた。チャットグループに参加している日本語ボランティアからも、近況やイベント情報を投稿し情報交換を活性化した。なお、参加者同士が互いの個人情報にはアクセスできないオープンチャットという機能を用いた。

(2) 図書の貸出し・蔵書の充実

令和 5 年度に新たに 22 冊の日本語教育関連書籍を購入し、地域のボランティア教室への貸出し用に配架した。

10 令和 5 年度の総括と令和 6 年度の取組

- ・教室を実施し始めた数年前は、比較的情報収集や語学学習に慣れており、職場や家族等の中で日本人市民と関わりがある外国人市民の申し込みが多かったが、年度を追うごとに同郷者コミュニティ以外との関わりが希薄で日本人市民と接点が少ない状態で暮らす外国人市民（主にアジア系）の参加が顕著になってきている。
- ・SNS に関して、約 630 人のフォロワー（前年比約+140 人）を獲得しており、外国人市民や関心を持つ広島市民に情報が届くようになってきた。

- ・ 「やさしい日本語講座」は連続講座化することにより「気軽に参加したい」市民にとって参加のハードルが高まっていることが課題となっていた。令和5年度は、開催場所を市内中心部にする等したことで、参加者が大幅に増えた。
- ・ 多文化共生講師の養成講座は、昨年度は参加者の集客には苦勞したが、今年度は参加ターゲット層の外国人学生の年間スケジュールを考慮して春に開催したところ、参加者が増え、7名養成することができた。今年度からは地域の国際理解講座に講師として紹介する事業を本格的に始動し、8件実施でき、いずれも好評を得た。
- ・ 日本語教育コーディネーターを中心に、地域の日本語教室のニーズを把握すると共に、新規教室立ち上げ時の支援を行ってきたことで、年に数教室の立ち上げが続いてきた。日本語教室のベテランボランティアの高齢化や外国人の転入の増加を見据え、新しい教室立ち上げを引き続き後押しするため、令和5年度からはこの取り組みを事業化し、1教室の立ち上げ準備に伴走した。令和6年度以降も積極的に実施する。
- ・ 今年度も高等教育就学適齢期の若年層の日本語教室参加が見られた。